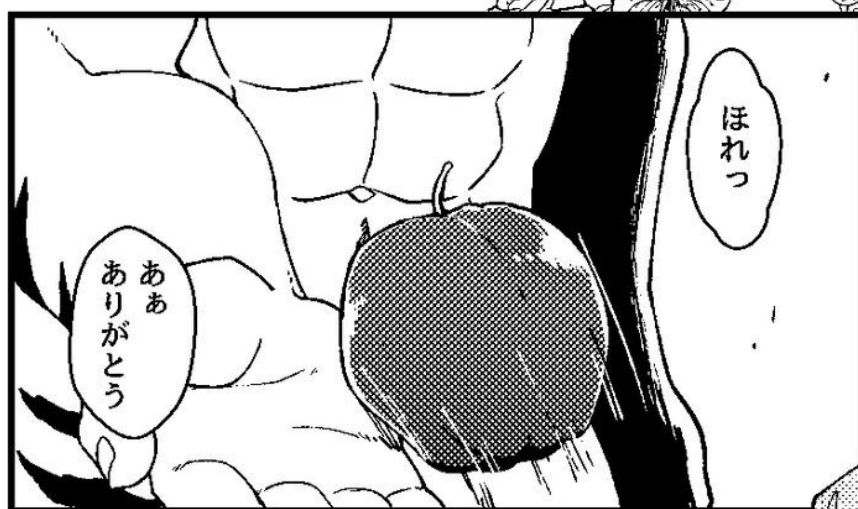


成人
指定
ADULTS ONLY







孤児院で
同じ釜の飯を食い
寝食を共にした



リンネとは
幼馴染だった



なあザンゲ

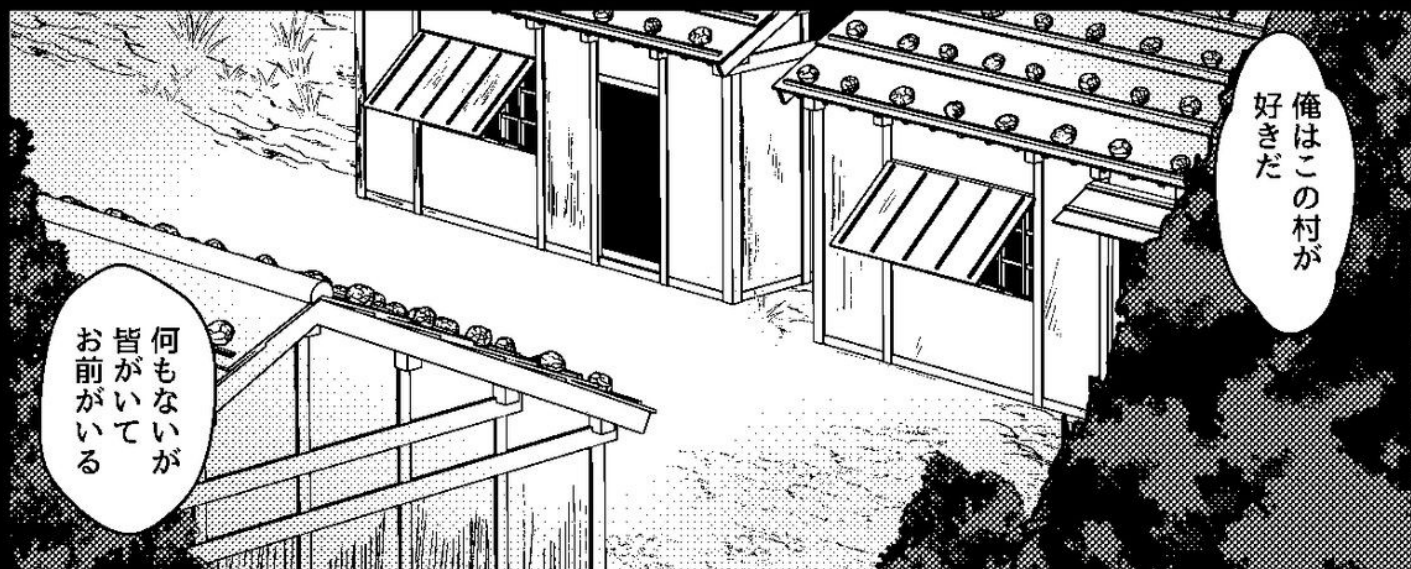
どうした?



いや
なにも……



ん?
どうかしたか?



俺はこの村が
好きだ

何もないが
皆がいて
お前がいる



俺は剣術で
お前は神道で
この村を
守っていこう



ああ



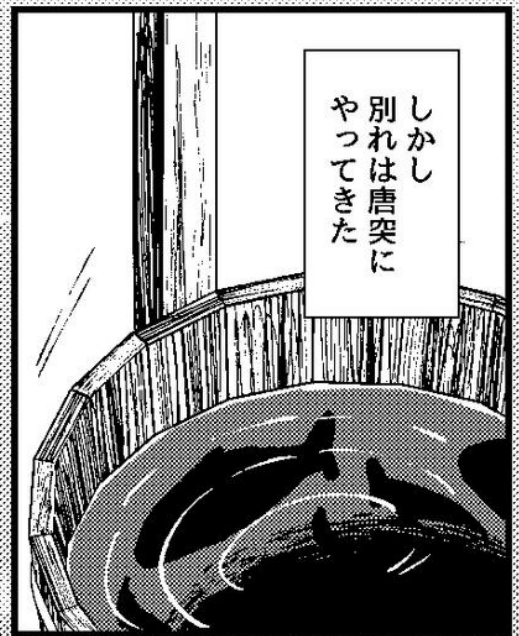
リンネは
不思議な
奴だった

そこに
いるだけで
場が明るく
なるような…

そして俺は
そんなリンネの
事が……



大漁だ！
みんな喜ぶぞ



しかし
別れは唐突に
やってきた







何が最後だ！
何があった！

よかった…

最後に
逢えて…

……天狐って
奴らが…

突然村を……

天狐だな！
わかった！

すぐ医者に
行くぞ！

ザンゲ…

何だ

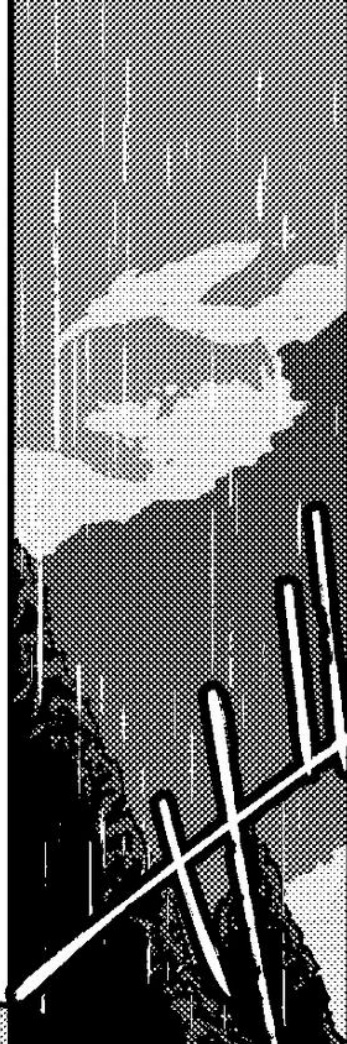
この日俺は
神を信じる事を
やめた

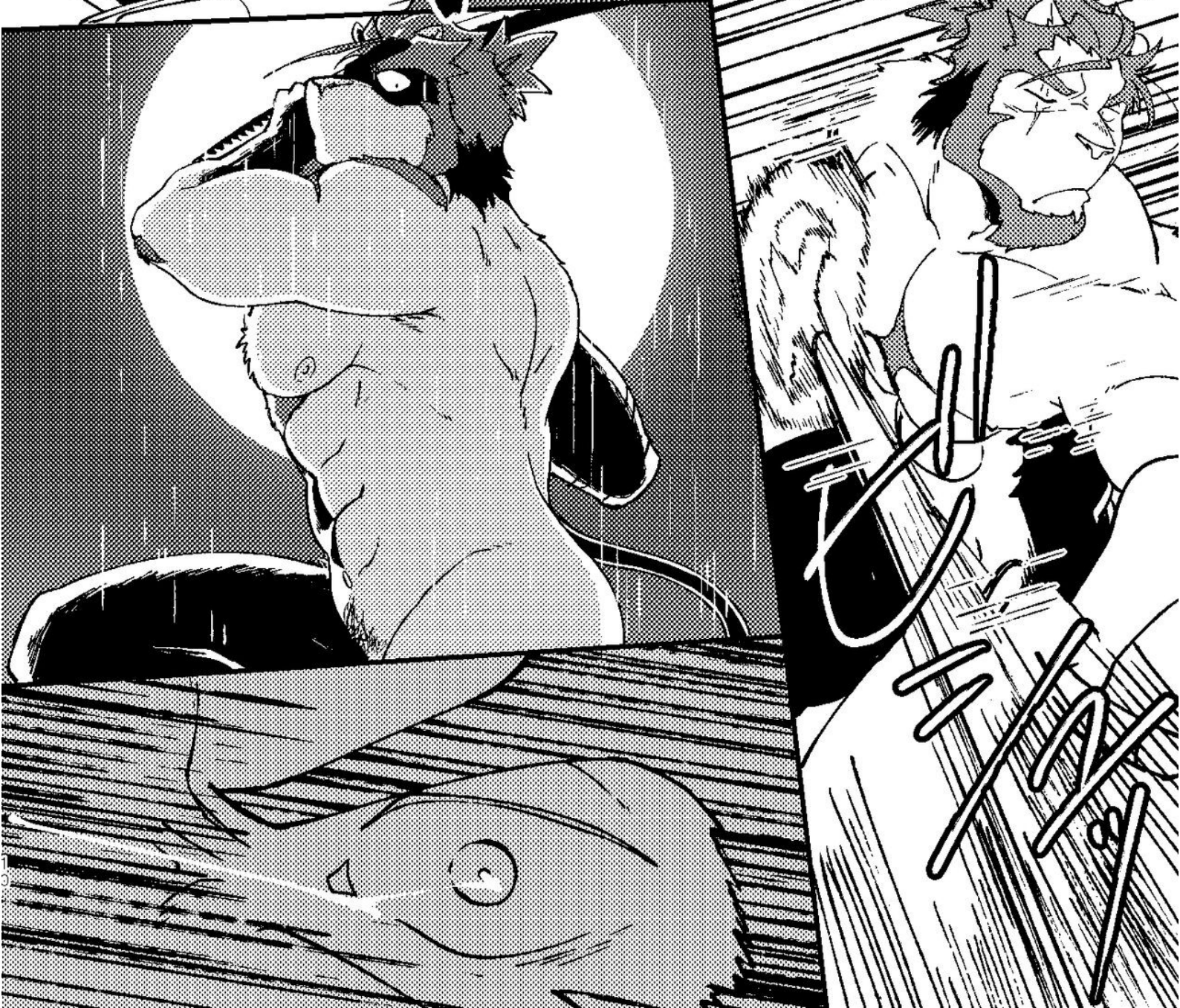
ザンゲ…
俺は…
お前の…
ことが…

リンネ！
リンネ！

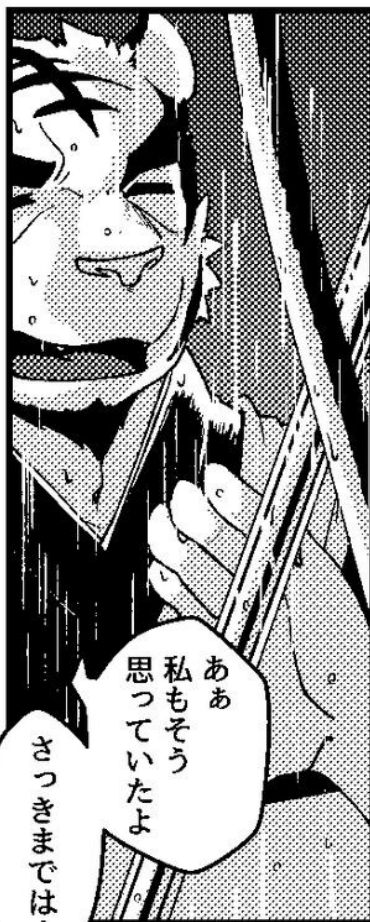
死ぬな！
死なないで
くれ！

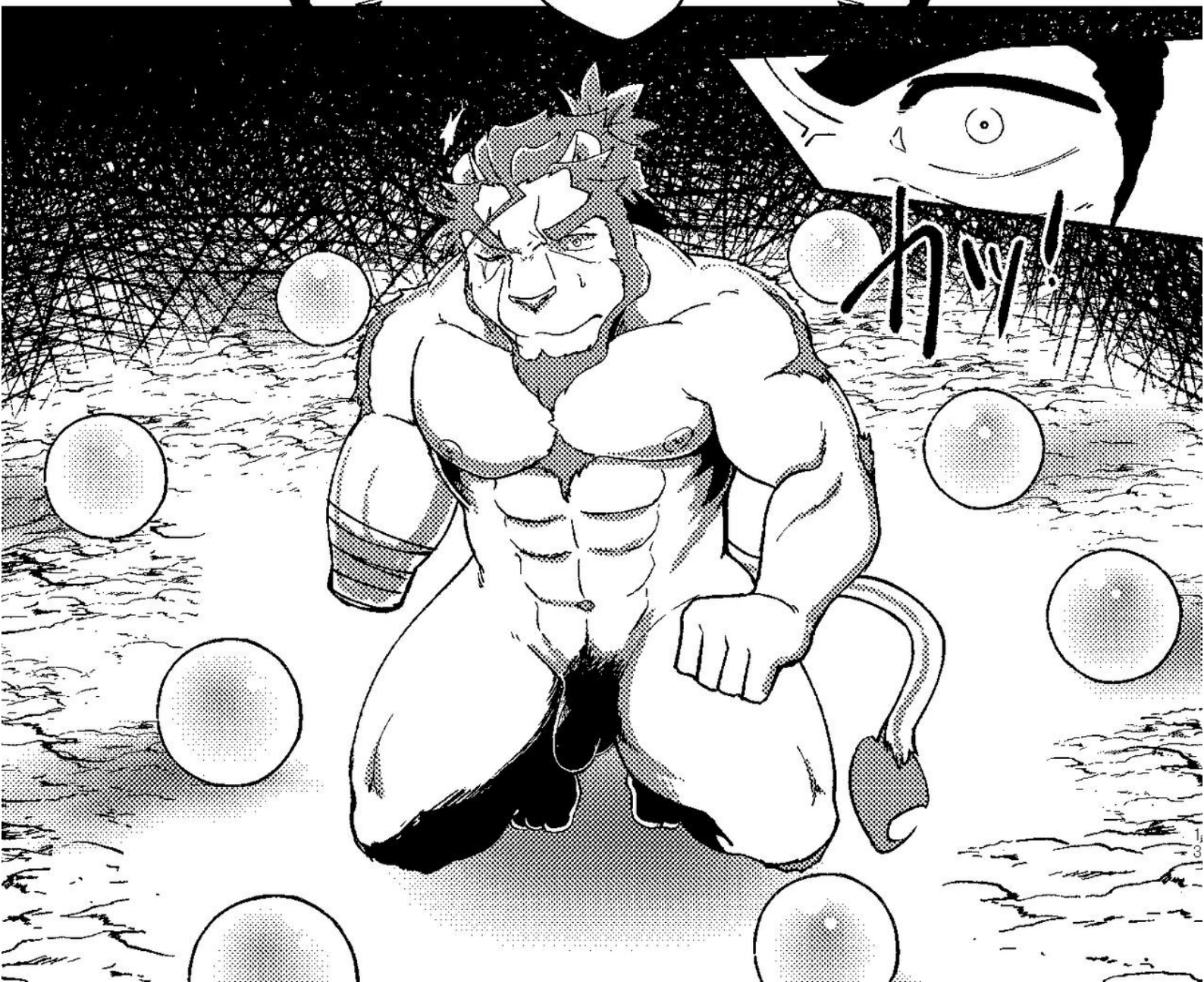
そして復讐の為に
天狐を調べたが
何一つ手掛かりは
掴めぬまま長い月日が
過ぎ去った



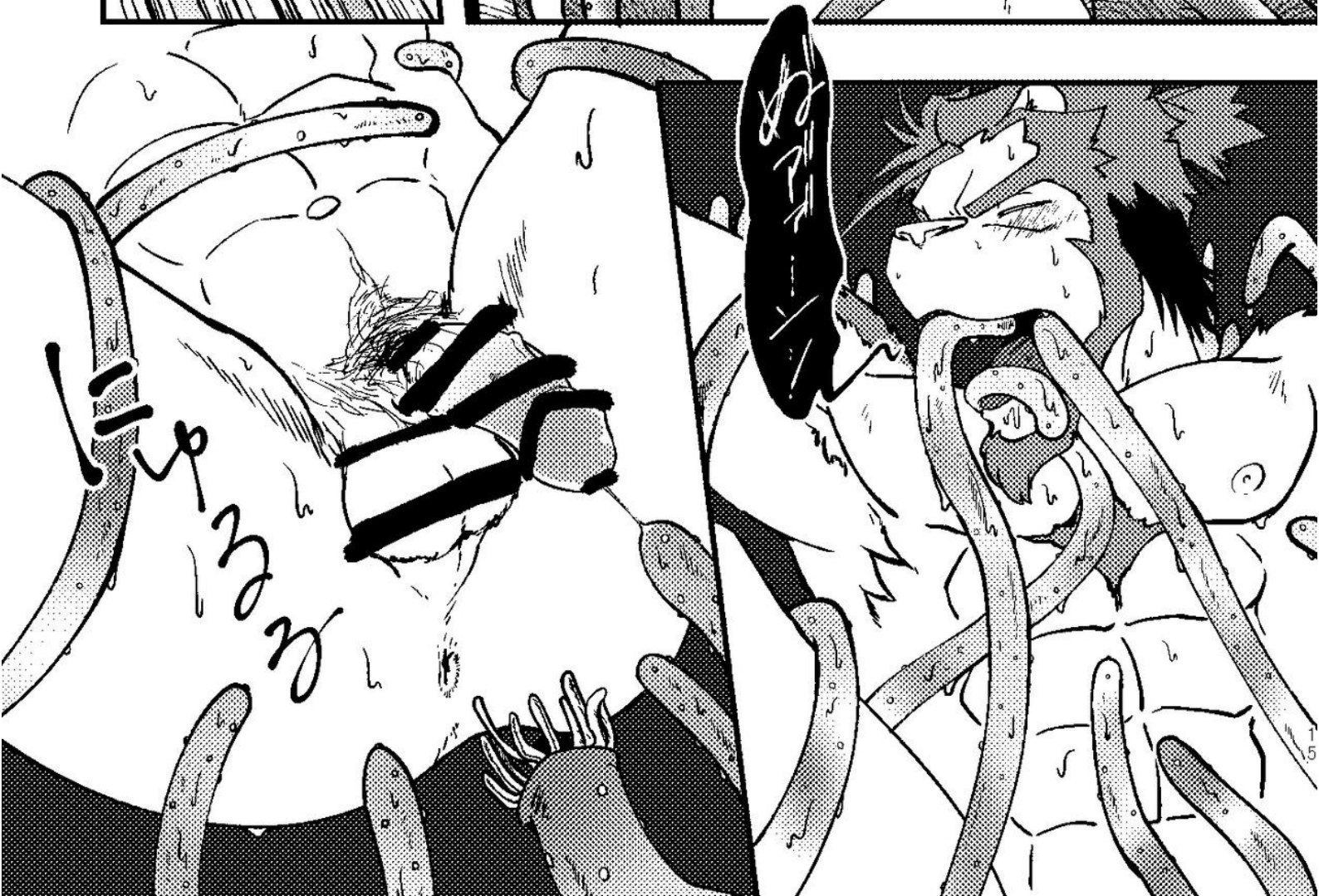
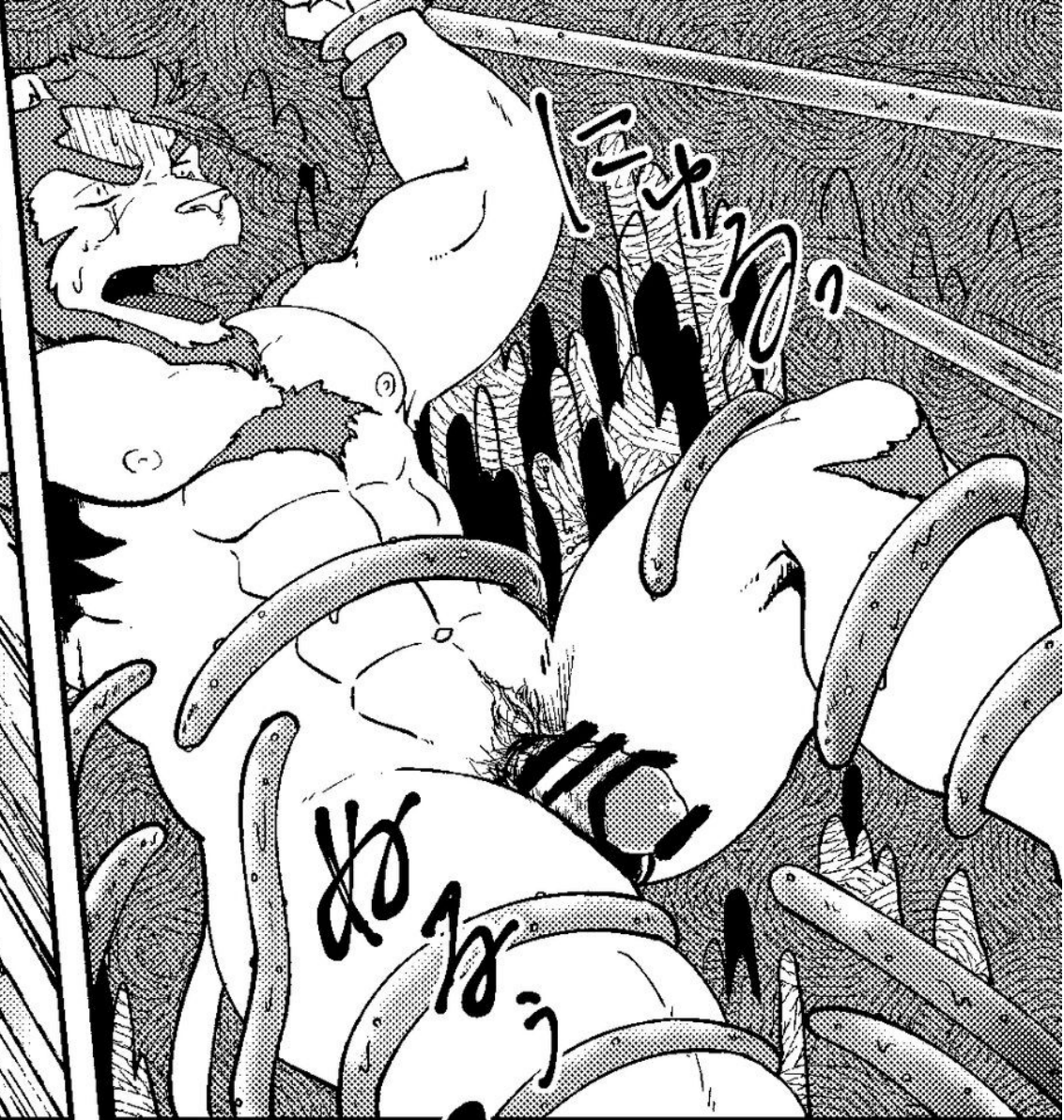


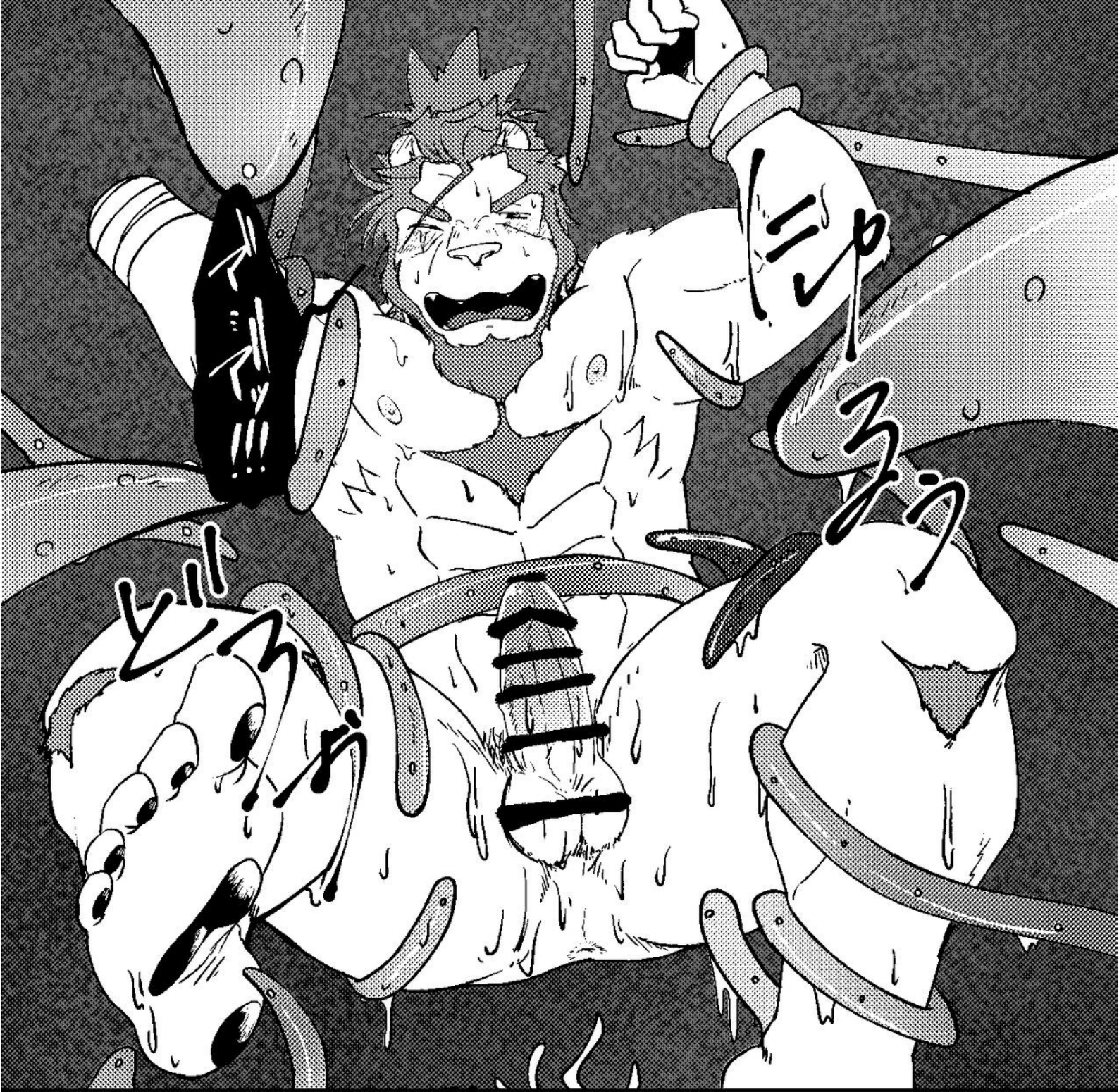














ははは
気をやったか？
情けないな



ははははは

どうだ？
カタナ殿

人外に
犯される
気分は

犬畜生にすら
倅^{もと}るではないか

これでは
交尾にもなつて
おらんぞ

恥ずかしく
ないのか？

ヒトの尊厳も
まるで無いな

それとも
こういうのを
求めておられたか？

永遠に終わらない
罰を望んでいたの
だろう？



ははは

身体は悦んで
おるではないか

これでは罰なのか
褒美なのか
わからぬなあ？



まさに
獣以下と言った
ところか

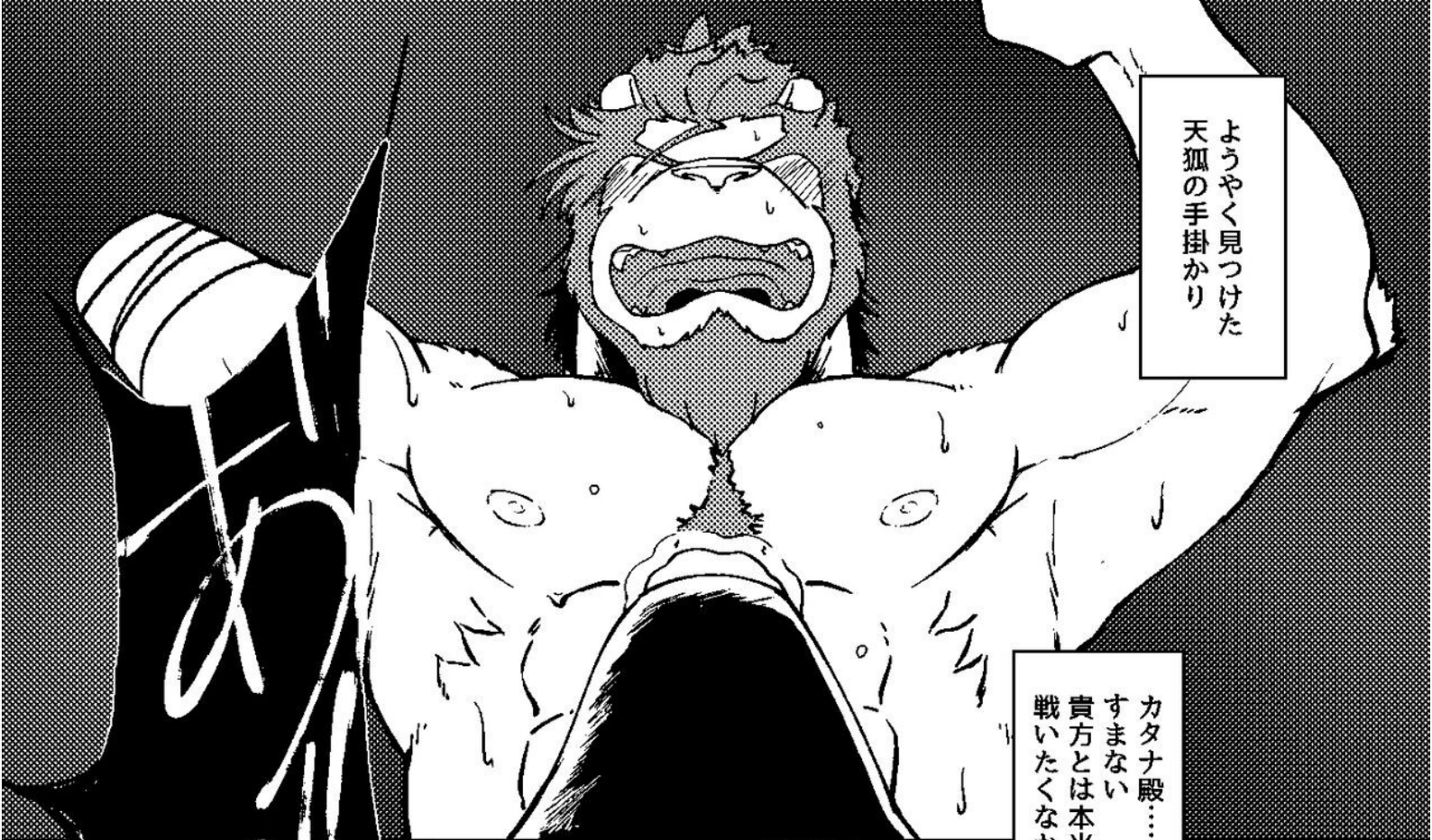
こいつに
貴の舌を与えられ
続けたかったの
だろう？

しかし身体は
どうしようもなく
淫乱のようじゃあ
ないか

大方
あの弟子との
姦淫も本当は
悦んでいたの
だろう？

ははは
また気を
やったか





ようやく見つけた
天狐の手掛かり

カタナ殿……
すまない
貴方とは本当に
戦いたくなかった

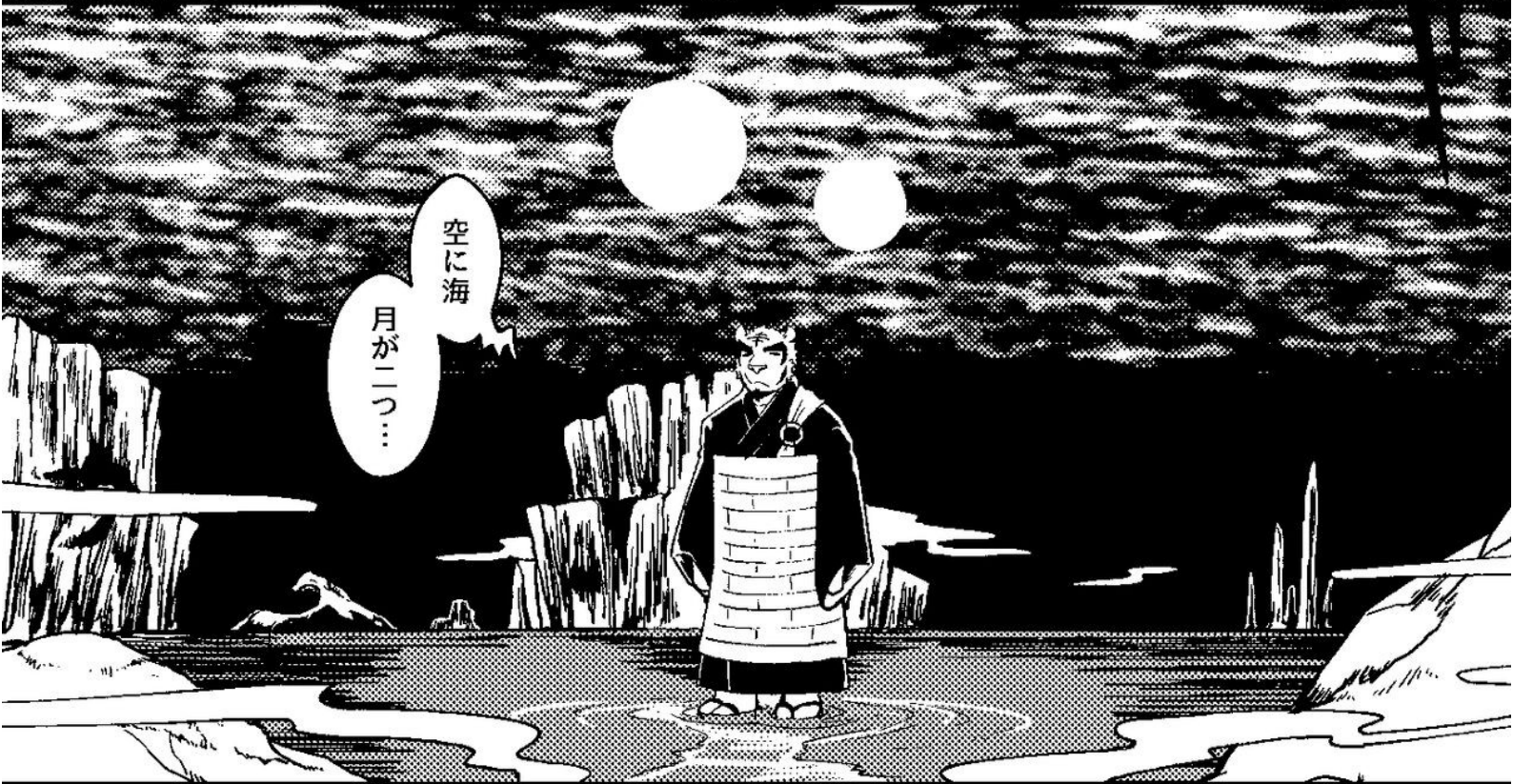


しかし
私はそれでも
リンネを……





うーは……



空に海

月が二つ……



なんという
無茶苦茶な
風景なのだ……

これでは
まるで地獄……



カタナ…殿…？



なぜ
何故自分の
精神世界で
斯様な姿で…



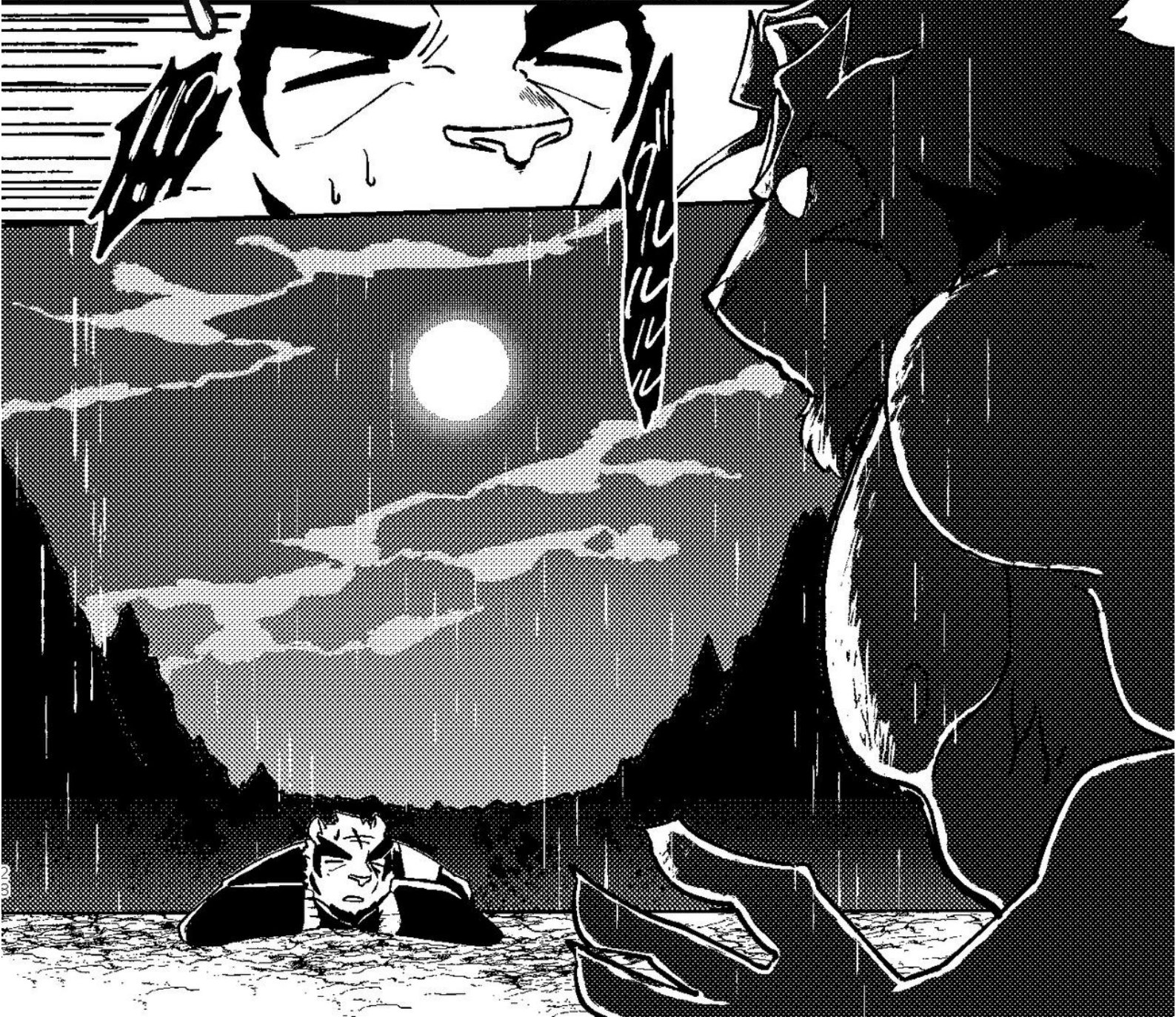
オレサマの
縄張りに入ってきた
莫迦野郎はア？



誰だア？









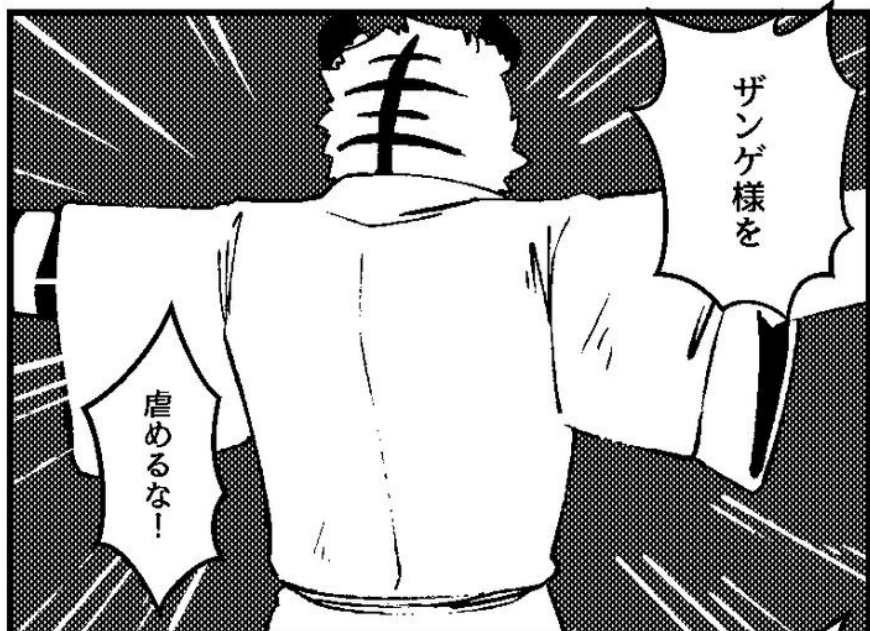


死
…

ああ……



これでやっと
リンネの元に……





カタナ殿!

私の
負けだ!

頼む!

やめて
くれっ!



私は!

これ以上
大事なものを...

ザンゲ様...
どうか
ご無事で...



くうっ...

カキン!



ああ
.....



!!?





誌 名 K A . T A . N A . - 第三幕 -
発行日 2018年4月30日
発 行 花吹雪ゴリラ
発行者 ゆうご
印 刷 くりえい社

PIXIV:3346541

Twitter:@u5rilla_ktzk

このお話はフィクションです。
実在の人物、団体、組織等とは
一切関係ありません。

この本をネットオークションに
出品したり、インターネット上に
転載しないでください。

【THANKS】

パオマー(@PaoMer_tan)

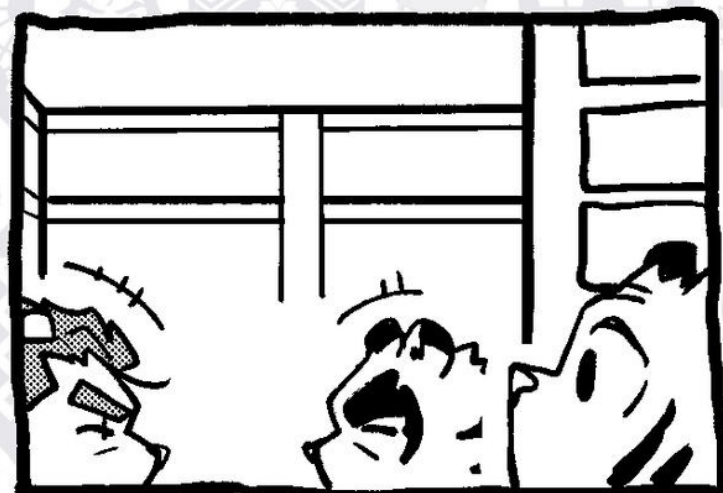
K A . T A . N A .



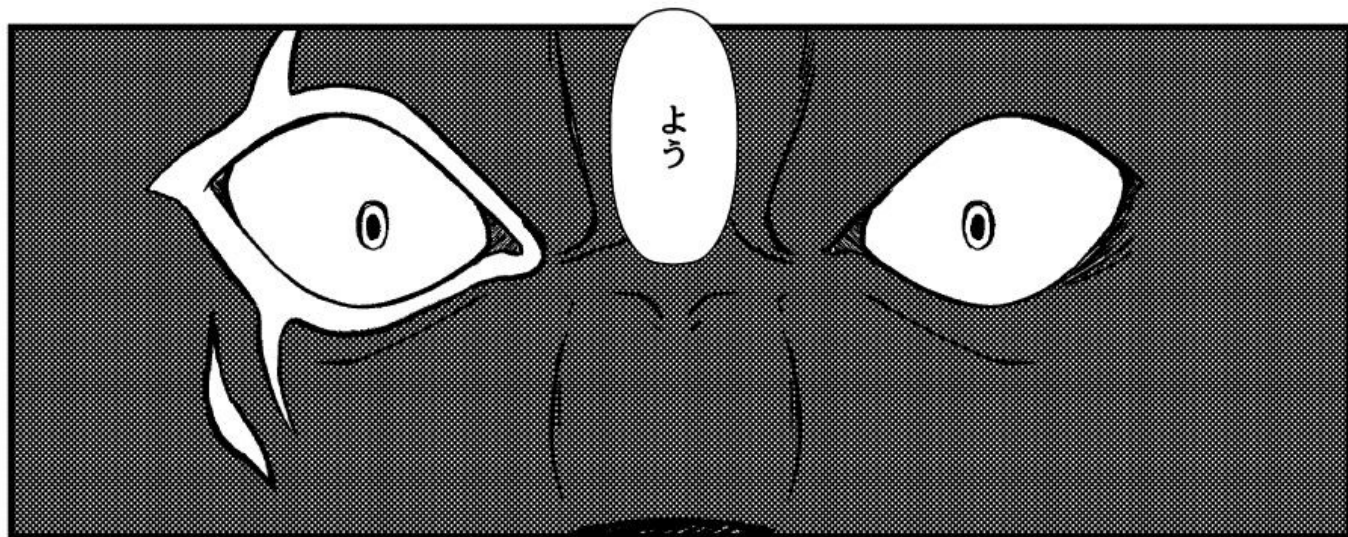
LINEきせかえ

かオオ!カタナさん

※第二幕の時の話







おっ？

こりやあ
おもしろえ！

どこのどいつかと
思えば

オレサマを
一部喰った大莫迦な
タチキリじゃねえか

天狐オ

そろそろ全部
俺の方に來たら
良いじゃあねえか

ハッハッハ！

タチキリ！
やつぱオメエは
おもしろえ！

見ろ！
この
混沌とした
風景を

無茶苦茶だろ

空に海
月は二つ

コイツの精神は
常に矛盾に
まみれている

テメエみてえな
綺麗な精神
つまんねえんだよ

まあ
テメエ自身は
気に入ってるから

オレサマの妾くらいには
してやらんこともないがな







うるせえよ

テメエの世界は
好きだが

テメエは
気に入らねえ



安心しな

時間をかけて

テメエを蝕んで
やるからよ

見も心もな



フン

そういえば
天狐ヨオ

コイツの弟弟子の
ありやなんだ？

ああ？

知らねえな

あらかたオレサマの
残り滓みてえなもんだろ

まあそれでも

力としては
十分巨大だろうがな



来な

拳同士で
とことんやろうぜ



良い顔
じゃあねえか







ビビ...

ビビビビ...

良い...

良いぜえ
ダンナ

見てみな

興奮して
魔羅が
もうたまんなく
なっちまった
じゃねえか

ああ....

命がけで
殺し合うと
しようじゃねえか！





ん...

ようダンナ
目が覚めたかい

12



なにより…

なぜお前は
俺を抱いた…？

あんなに…

あんなに嫌だった
はずなのに…

あの時の事を
思い出し

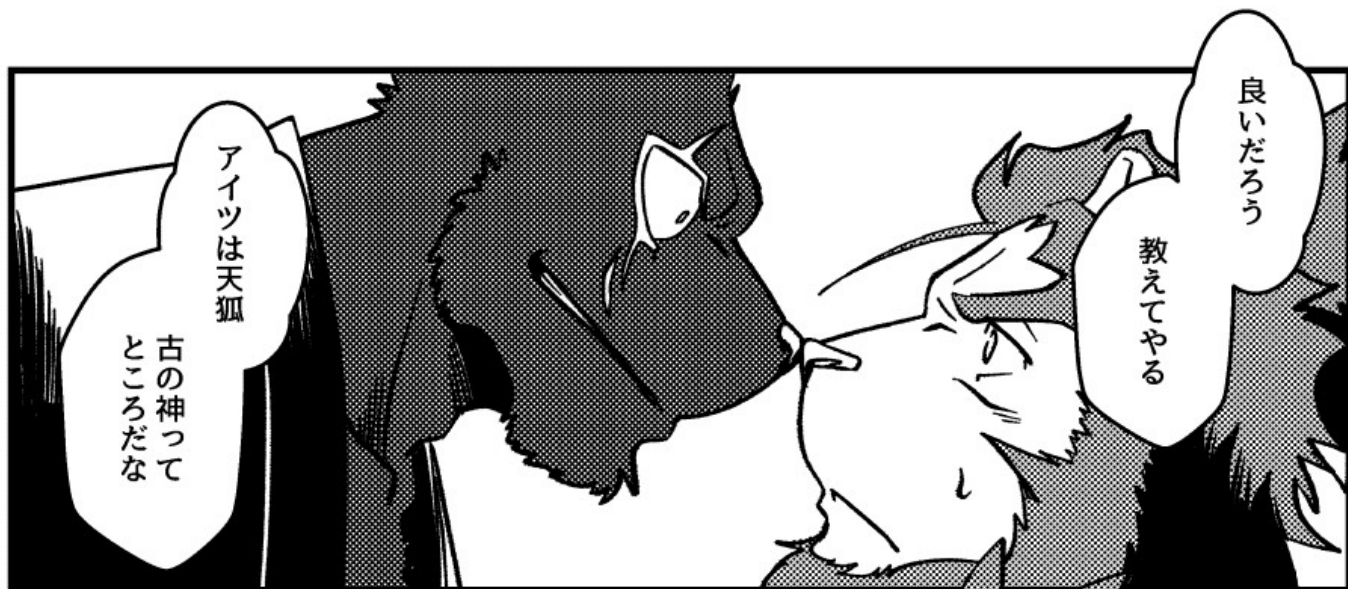
何度も何度も
……自分を慰めた…

それでも
身体の熱が
冷めぬのだ……

答えろ
タチキリ…

お前は
俺の身体に
何をしたんだ…

クククク…



ダンナの所の頭領は
ダンナを最強の殺戮者に
する為に天狐をダンナに
埋め込んだ

俺がダンナの腕を
斬った時点で
その計画はダンナの
弟子に移ったんだ
だろうな

片腕じゃ
最強の殺戮者は
作れねえからな

用済みになった
ダンナは晴れて
自由の身つてわけだ

だが頭領にとって
計算外だったのが

天狐はダンナの
精神を気に入って
ダンナの中に
居つちまいたって
ことだな

天狐はダンナを
乗っ取る気で
いるみたいだぜ







俺のご機嫌
取りながら
しっかり
ねぶっておけよ

じやないと
挿れてやらねえ
からな



いいぜ
物欲しげな
顔しやがって

そんなに
魔羅が
好きなのか？



こつちに
ケツ向けて
おねだりしてみな

何が欲しいのか
ハッキリとな

タチキリ……

頼む……

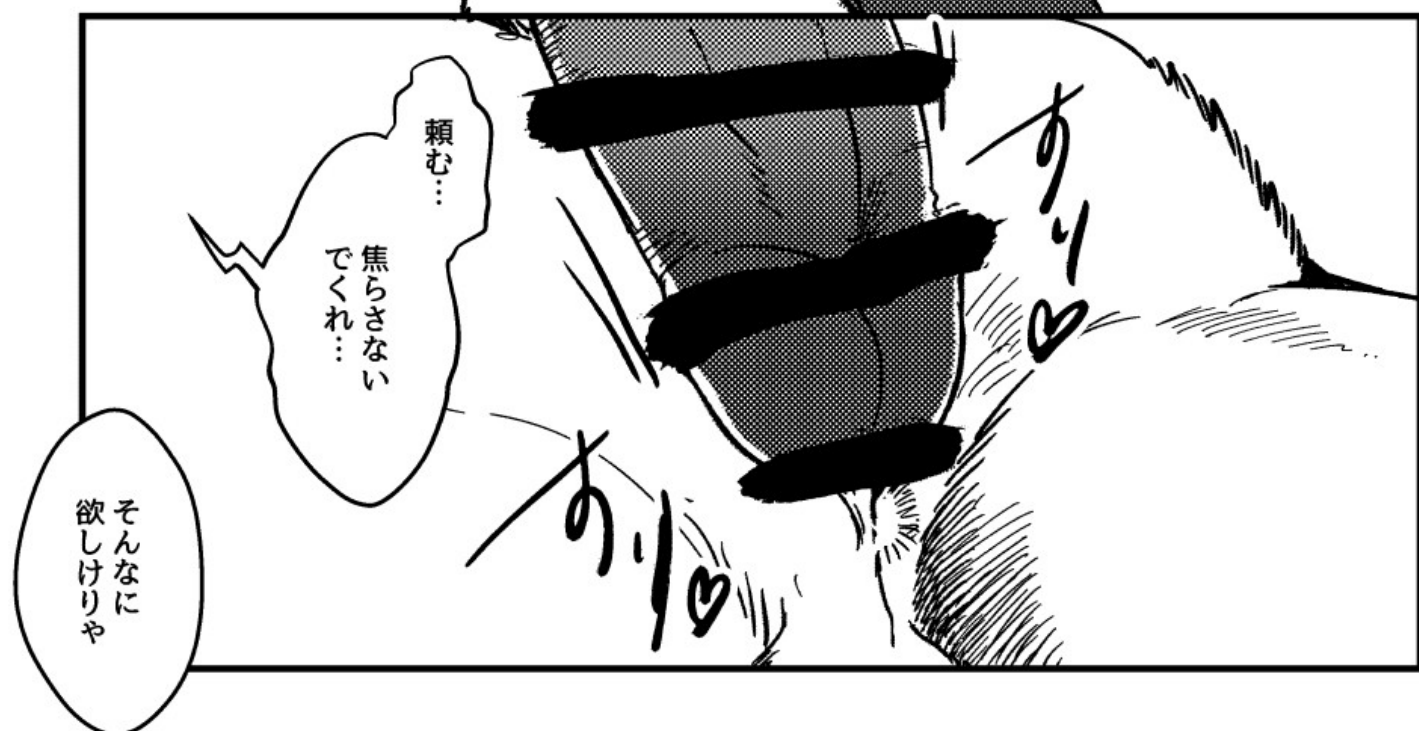
俺の……
俺のこの
見窄らしい穴に

お前の
遅い魔羅を
おさめてくれ……

クク……

そんな獣みたいな
恰好でと言った
覚えはないがなあ

なっ……!







みつともねえなあ
魔羅ねじ込まれて

良いか？

イイツ！

イイツ……！

悦ぶなんざなあ

テメエは
罰のつもりかも
知れねえが

これじゃあ
ご褒美じゃねえか

オラ

ケツに魔羅
挿したまま
こっち向いて
みな

おうおう

そんなに
良いのか

触ってもねえのに
どんだん汁が溢れて
きてるぞ

ぐんぐん

恥ずかしく
ないのか？

うーっ…

うーっ…！



言うじゃ
ねえか

仕方ねえな
舌出しな

んうう

しゅ

しゅ

しゅ...
しゅ



嘘だ...!
触ってないのに...

ギヤヒヒヒ!
口吸いで気をやるたあ
本当に生娘のなつた
みてえじゃねえか!

情けねえなあ
ダンナ!

これから
時間をかけて
デメエを仕上げる

俺の小便や糞も
悦んで口にする
奴隷に仕立て上げて
やるからな

ギャヒヒー！

嬉しくてお漏らし
しちゃったみてえだなあ！

あき
あき

ス
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ハ
ハ
ハ





今日の仕上げだ

テメエの所有者の
目を見ながら
汁を噴き上げてみな

できるだろ

テメエみたいな
浅ましい身体なら

俺は
何度も何度も

種汁を尻に
注ぎ込まれ

それ以上の汚汁を
噴き上げた

尻で感じる快楽と

タチキリからの
尊厳の欠片も無い
言われように

何もかも
どうでもよく
なるほど

ただただ
興奮していた



誌 名 KATANA4
発行日 2019年4月29日
発 行 花吹雪ゴリラ
発行者 ゆうご

PIXIV:3346541
Twitter:@u5rilla_ktzk

このお話はフィクションです。
実在の人物、団体、組織等とは
一切関係ありません。

この本をネットオークションに
出品したり、インターネット上に
転載しないでください。